

長畝ふるさと通信

【2018年6月号】

■ 梅雨入りは2週間も早かったのに・・・



昨年より2週間も早く梅雨入り宣言したのですが、一向に雨は降りません。6月に入ってまとまった雨が降ったのは1日だけ・・・低温と日照不足から苗の生育も平年より遅めで推移しているようです。

6月下旬に一斉に羽化するトンボたちの姿も今年は少なく感じます。

生育調査の結果はこんな感じですから・・・

	5月30日	6月20日	前年6月
草丈(cm)	24	36	32
茎数(本/m ²)	68	251	405
葉数(枚)	4.5	7.8	8.6

約一月の間に草丈は12cm、茎数は分けつして約3.5倍に、葉数も3枚ほど増えて生育しているように見えますが、前年と比較すると日照不足から草丈は伸びず、低温と雨不足の影響で分けつ(茎が分かれて株が大きくなること)が進まず、葉数もあまり増えていないことが分かります。

気温は上昇傾向なので、あとは雨の「酸素シャワー」が欲しいところですが・・・雨乞いでもしたい心境です。(月末に大雨で被災した県のみなさん、ごめんなさい)

■ 溝切で田んぼに変化が・・・



6月の一番の重労働は「溝切」ですが、最近バイク型の乗用溝切機が普及して、楽ちんになりました。とはいえ、数百枚の田んぼにすべて溝を切るので、体力勝負ですけど・・・

うちのスタッフも若返り、「茶髪」や「筋肉マッチョ」が主体となりました。田んぼの風景も変わって見えますわ。



■ ライスセンターの改修工事始まる

総工費約8000万円をかけたライスセンターの改修工事が始まりました。新たに40トンの籾を処理できる乾燥機を設置して、将来の規模拡大に備えようと目論んでいます。これまで先輩諸氏がコツコツと貯め込んできた貴重な資金を「半端なく」使っていただくこ



とにプレッシャーもありつつ、しっかりと未来を見てこれからも仕事に励みたいと思います。

これまで約40年もの間、ライスセンターを稼働させてきた部品たちが次々と解体され、屋外に放り出されています。思わず「ご苦労様でした」と声をかけたくなる心境です。

8月上旬には完成予定で、今秋から本格稼働します。

■ 今年の田んぼアートは



トキ野性放鳥も10年を迎えました。秋には盛大なイベントも企画されているようです。トキの認証米も華々しいスタートを切りましたが、わずか5年で売り上げのピークを迎え、以降は微減状態が続いています。全国ブランド米合戦の厳しさが増しているからです。

今年の田んぼアートのテーマは「佐渡から世界へ」。地元の中학생たちがデザインしました。高台のビューポイントからの眺めは現在こんな感じですが、あと一か月もすればもっと色彩がはっきりとして「見頃」を迎えます。我々もこのポイントからしっかりと将来を見据えて、お米づくりを続けていきたいと考えています。30年産米もよろしくお願い致します。